



結核ってどんな病気？

結核は、結核菌 (*Mycobacterium tuberculosis*) が主に肺に炎症を起こす感染症です。結核を発病している人の咳、くしゃみなどの飛沫から空気感染し、初期症状は体のだるさや微熱、2週間以上続く咳などがあげられます。昔の病気というイメージがありますが、今でも日本では年間約16,000人の新規患者が発生し、約2,300人が命を落としている重大な感染症です。結核の罹患率は、本県を含め全国的に低下してきているものの、本県は全国第5位（2017年）で、まだ毎年100人以上の新規患者が発生しています。

<保健科学担当>

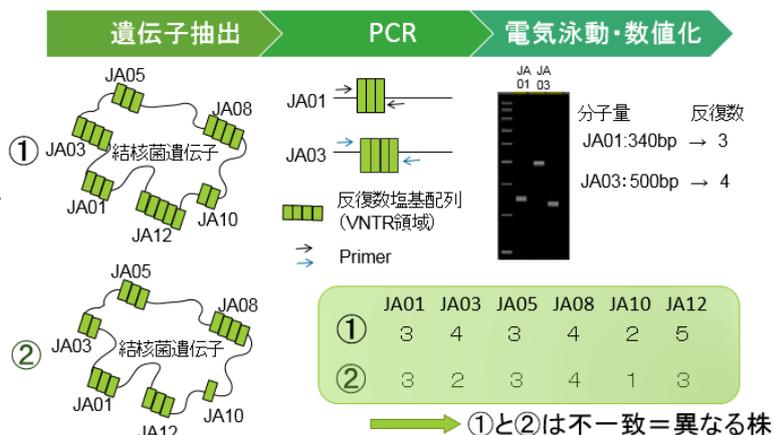


保健製薬環境センターでの検査

結核は、潜伏期間が長い感染経路や感染原因の特定が非常に難しく、まん延防止策がとりづらい病気です。当センターでは **VNTR法(反復配列多型分析法)** により、結核菌の遺伝子情報を調べることで、まん延防止や原因の解明の手助けをしています。

VNTR法は、

1. 結核菌から遺伝子を取り出す
2. VNTR領域と呼ばれる場所の遺伝子を増やす (PCR法)
3. 増やした遺伝子の量を数値化して、他の結核菌と比較する、という手順で行います。



数値化された結核菌同士の遺伝子情報が一致すれば、感染源が同じである可能性が高いことがわかっています。

結核を予防しましょう

結核は、健康な人が感染しても免疫機能が働き、ほとんどの場合発病しません。しかし、何らかの原因で免疫力が低下すると、感染から何年もたった後に発病する場合があります。そのため、免疫力が低くなりがちな 高齢者や乳幼児 に特に注意が必要です。乳幼児の結核予防には、BCG接種 が有効です。成人では、適度な運動や十分な睡眠、バランスのよい食事など健康的な生活が予防につながります。

現在の結核は感染してもきちんと治療すれば治る病気です。高齢者には初期症状が現れにくいこともありますので、おかしいな?と思ったら早めに医療機関を受診したり、年に一回は健診を受けるようにしましょう。

詳しくは徳島県健康増進課 HP をご覧ください

<https://www.pref.tokushima.lg.jp/ippannokata/kenko/kansensho/2015111600207>